

資料編

資料1：諮問文及び答申文	132
資料2：加西市総合計画策定体制図	133
資料3：加西市総合計画審議会委員名簿	134
資料4：加西市総合計画検討委員会委員名簿	135
資料5：加西市総合計画（案）に関する審議会の主要意見	138
資料6：加西市総合計画策定経過	141
資料7：用語説明	143

諮問文
諮問第5号

加西市総合計画審議会

加西市総合計画について（諮問）

地方自治法（昭和22年法律第67号）第2条第4項の規定による加西市総合計画を定めたいので、加西市総合計画審議会設置要綱（昭和60年加西市訓令第21号）第2条の規定により諮問します。

平成12年10月6日

加西市長 藤岡 重弘

答申文

平成12年11月30日

加西市長 藤岡 重弘 様

加西市総合計画審議会
会長 霜田 稔

加西市総合計画について（答申）

平成12年10月6日付諮問第5号をもって諮問のありました加西市総合計画（案）について、慎重に審議した結果、別添のとおり答申します。

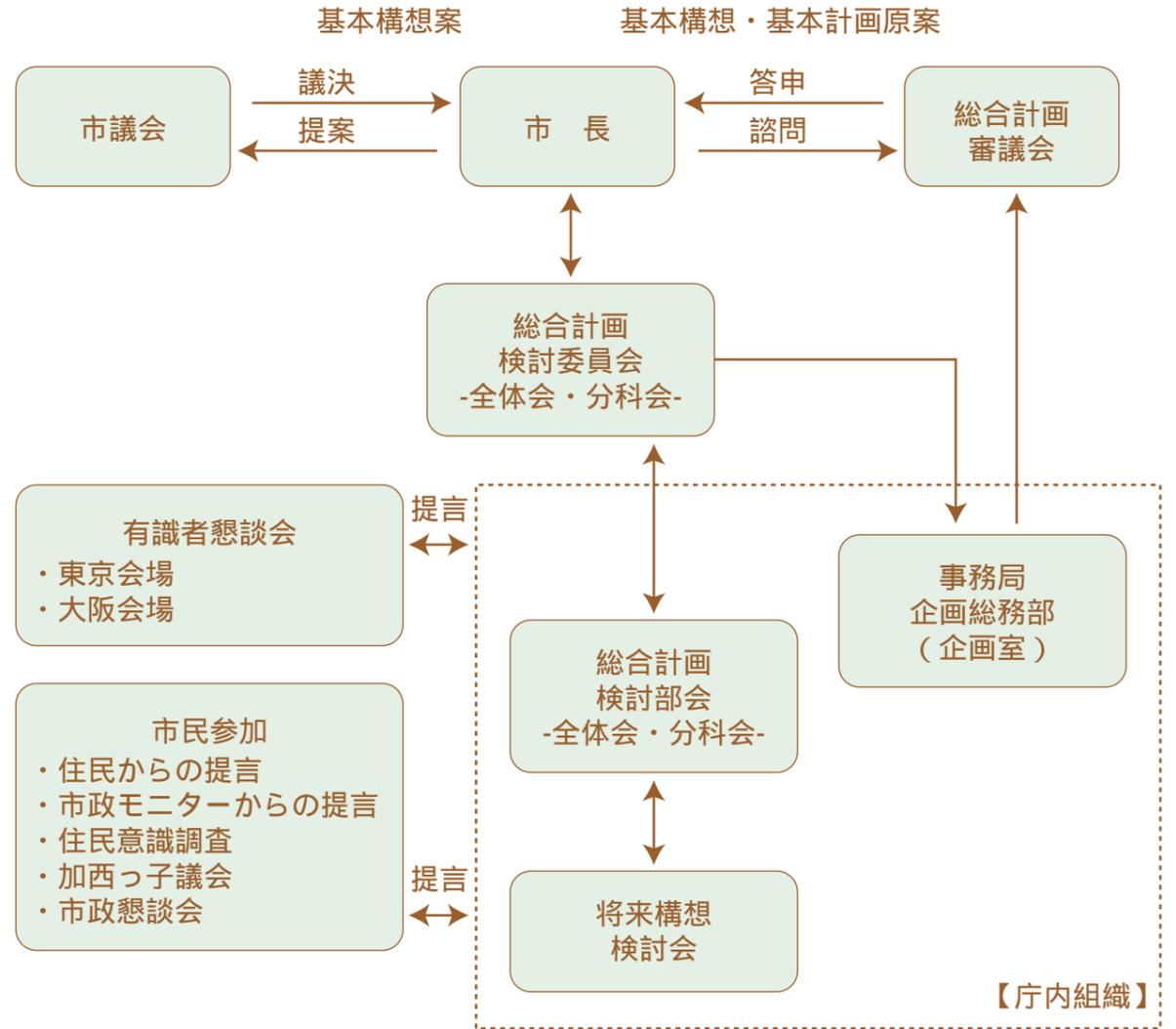
なお、計画の推進にあたっては、下記の事項に十分留意し、その実現に万全を期されるよう要望します。

記

- 社会情勢がめまぐるしく変化する中で、今後特に急激に進行すると予測される少子高齢化、価値観の多様化、高度情報化に対応すべく、これらの情勢の迅速な把握に努めながら総合計画案に基づいた取組を図ること。また、本年は国勢調査実施年であり、その調査結果にも配慮し、的確かつ機動的な対応に努められたい。
- 第4次総合計画の策定に際し、その原案づくりを市民中心の同計画検討委員会において実施してきたことも踏まえ、今後の施策の展開においては、ともに助け合う「共助」及び市民、地域、企業、行政等の様々な主体の「協働」によるまちづくりを推進し、市民が主役となる市民参画社会の構築に努められたい。
- 審議の過程で、各委員から出された意見、要望については、十分尊重し、「花と歴史と愛のまち かさい」の創造に向け、アカウンタビリティ（説明責任）を果たしながら積極的かつ効果的な施策、事業の推進に努められたい。

加西市総合計画策定の組織体系は、次のとおりである。

総合計画策定組織体系図



(敬称略、 ；会長、 ；副会長、平成12年9月7日委嘱)

市 民 代 表	
氏 名	選 出 区 分
荒木 勤	加西市区長会
篠倉 継也	加西市農業委員会
仲田 忠雄	加西商工会議所
仁尾 功	加西市農業協同組合
山本賀代子	加西市連合婦人会
岡田 康男	加西市老人クラブ連合会
尾上 和彦	加西市消防団
鴨川 浩志	加西青年会議所
小林 紀之	加西市観光協会
長田 二郎	加西市文化連盟
高井 広幸	加西市体育協会
森田喜代次	加西市商店連合会
菅野 和彦	加西市社会福祉協議会
大西 哲男	加西市労働者福祉協議会
稲岡 輝彦	加西市人材育成基金審議会
学 識 経 験 者	
氏 名	選 出 区 分
霜田 稔	鳥取大学教授
福田 丞志	21世紀ひょうご創造協会
民輪めぐみ	(株)タミワオフィス代表
市 議 会 議 員	
氏 名	選 出 区 分
西村 衛	市議会議員
桜井 光男	市議会議員
繁田 基	市議会議員
関 係 行 政 機 関 職 員	
氏 名	選 出 区 分
富士原真人	東播磨県民局参事
高見 昭弘	中央農業技術センター所長
高畑 孝充	社土木事務所長
越智 実鶴	社土地改良事務所長
山本 龍二	社農林事務所長
小林 洋子	加西保健所長
松本 義文	加西市助役
松尾 修	加西市収入役
竹内 暉雄	加西市教育長

加西市総合計画検討委員会委員名簿 (敬称略、 ；会長、 ；副会長、平成12年3月14日委嘱)

市 民 代 表	
氏 名	選 出 区 分
井上 智章	公募委員
高井 誠貴	公募委員
永井 秀世	公募委員
藤原 勝仁	公募委員
山路 安彦	公募委員
高瀬 由美	北条地区住民代表
岡 功子	富田地区住民代表
横田 敏嗣	賀茂地区住民代表
中川 岩雄	下里地区住民代表
小谷 紀子	九会地区住民代表
別府 弘	富合地区住民代表
神田 哲茂	多加野地区住民代表
大塚 哲徳	西在田地区住民代表
宇高 正晴	在田地区住民代表
阿部 勇	加西市美術家協会
ｽﾞｲﾄﾞ・ｼﾞｮﾝ・ﾏｲｸﾙ	南部公民館英会話教室講師助手
福永 信彦	加西市連合PTA
松尾 弥生	加西市青年連絡会(えんどれす)
岡 タケノ	加西市民生委員児童委員協議会
松本 美由起	播磨中央福祉専門学院
尾内 良三	加西ナチュラルストクラブ
田尻 亜妃子	加西市くらしと生活を守る会
喜田 又男	加西市土地改良区協議会
丸山 一夫	加西商工会議所
岡本 教穂	住職(元日本シナリオ作家協会事務局長)
垣内 守男	北条地区まちづくり協議会
学 識 経 験 者	
氏 名	選 出 区 分
宮本健市郎	兵庫教育大学助教授
柴田 守明	元社土木事務所長
高橋 宣也	元加西商工会議所中小企業相談所長
藤野 昌俊	住職(前民生委員児童委員協議会総務)
北田 重信	前加西市収入役

行政職員		
氏名	選出区分	
藤元 昇	加西市理事（市民参画・市史担当）【加西市総務部長】	
柿本 弘道	加西市財務管理部長【加西市財務部長】	
田野 操	加西市理事（環境担当）【加西市市民環境部長】	
栗山征三郎 （安富智彦）	加西市市民福祉部長 【加西市福祉部長】	
後藤健次郎	加西市地域振興部長【加西市経済部長】	
石岡 崇 （武部信行）	加西市都市整備部長【加西市都市建設部長】 【加西市都市建設部長】	
福井 勇	加西市上下水道部長【加西市下水道部長】	
浅見 健	加西市水道事業副管理者【加西市水道事業所長】	
仲田 誠	加西市消防長	
吉田 廣	加西市教育次長	
豊田 正幸	加西病院事務局長	

注：【 】は、平成12年7月1日付け機構改革に伴う前職名である。

加西市総合計画検討委員会分科会メンバー		
氏名	選出区分	
加西市総合計画検討委員会分科会メンバー		（敬称略、 ；部会長、 ；副部会長）

教育文化分野		
氏名	選出区分	
宮本健市郎	兵庫教育大学助教授	
福永 信彦	加西市連合PTA	
高井 誠貴	公募委員	
高瀬 由美	北条地区住民代表	
阿部 勇	加西市美術家協会	
スイト・ジョン・マイケル	南部公民館英会話教室	
松尾 弥生	加西市青年連絡会（えんどれす）	
藤元 昇	加西市理事（市民参画・市史担当）【加西市総務部長】	
吉田 廣	加西市教育次長	

分野：学校教育、生涯学習、スポーツ・レクリエーション、芸術・文化、青少年の健全育成、国際化対応、女性問題（男女共同参画）等

加西市総合計画検討委員会分科会メンバー		
氏名	選出区分	
加西市総合計画検討委員会分科会メンバー		（敬称略、 ；部会長、 ；副部会長）

健康福祉分野		
氏名	選出区分	
岡 タケノ	加西市民生委員児童委員協議会	
永井 秀世	公募委員	
横田 敏嗣	賀茂地区住民代表	
小谷 紀子	九会地区住民代表	
松本美由紀	播磨中央福祉専門学院	
藤野 昌俊	住職（前民生委員児童委員協議会総務）	
栗山征三郎 （安富智彦）	加西市市民福祉部長 【加西市福祉部長】	
豊田 正幸	加西病院事務局長	

分野：健康づくり、高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉、少子化対策、医療の充実等

生活環境分野		
氏名	選出区分	
北田 重信	前加西市収入役	
田尻亜妃子	加西市くらしと生活を守る会	
藤原 勝仁	公募委員	
岡 功子	富田地区住民代表	
神田 哲茂	多加野地区住民代表	
尾内 良三	加西ナチュラリストクラブ	
田野 操	加西市理事（環境担当）【加西市市民環境部長】	
仲田 誠	加西市消防長	

分野：ごみ・し尿処理、環境対策（リサイクル、環境保全、公害）、消費生活、防災・消防 コミュニティの形成等

産業労働分野		
氏名	選出区分	
高橋 宣也	元加西商工会議所中小企業相談所長	
中川 岩雄	下里地区住民代表	
井上 智章	公募委員	
宇高 正晴	在田地区住民代表	
喜田 又男	加西市土地改良区協議会	
丸山 一夫	加西商工会議所	
柿本 弘道	加西市財務管理部長【加西市財務部長】	
後藤健次郎	加西市地域振興部長【加西市経済部長】	

分野：農林業、工業、商業、観光産業、労働対策等

都市基盤分野		
氏名	選出区分	
柴田 守明	元社土木事務所長	
別府 弘	富合地区住民代表	
山路 安彦	公募委員	
大塚 哲徳	西在田地区住民代表	
岡本 教穂	住職（元日本シナリオ作家協会事務局長）	
垣内 守男	北条地区まちづくり協議会	
石岡 崇 （武部信行）	加西市都市整備部長【加西市都市建設部長】 【加西市都市建設部長】	
福井 勇	加西市上下水道部長【加西市下水道部長】	
浅見 健	加西市水道事業副管理者【加西市水道事業所長】	

分野：農林業、工業、商業、観光産業、労働対策等

加西市総合計画検討委員会分科会メンバー		
氏名	選出区分	
加西市総合計画検討委員会分科会メンバー		（敬称略、 ；部会長、 ；副部会長）

都市基盤分野		
氏名	選出区分	
柴田 守明	元社土木事務所長	
別府 弘	富合地区住民代表	
山路 安彦	公募委員	
大塚 哲徳	西在田地区住民代表	
岡本 教穂	住職（元日本シナリオ作家協会事務局長）	
垣内 守男	北条地区まちづくり協議会	
石岡 崇 （武部信行）	加西市都市整備部長【加西市都市建設部長】 【加西市都市建設部長】	
福井 勇	加西市上下水道部長【加西市下水道部長】	
浅見 健	加西市水道事業副管理者【加西市水道事業所長】	

分野：土地利用、交通基盤、情報通信基盤、ライフライン、住宅、都市景観等

加西市総合計画シンポジウム（有識者懇談会）メンバー 【東京会場】		
氏名	選出区分	
青山 繁晴	三菱総合研究所政策・経済研究センター専門研究員	
川嶋 康宏	運輸省港湾局長	
竹本 和彦	環境庁地球環境部環境保全対策課長	
村上 政敏	時事通信社社長	
横山 弘美	弁護士	
加西市総合計画シンポジウム（有識者懇談会）メンバー 【大阪会場】		
小谷 融	関西国際大学教授	
三枝 輝行	阪神百貨店代表取締役	
永田 萌	絵本作家（妖精村）	
森本 征夫	吹田ケーブルテレビジョン編成制作部長	

職名等は、会議開催時

（1）基本構想（案）に関する主要意見

活力とは何か、活力の概念が非常に変化してきている。これからの時代は、職業の選択の幅よりも、安らかに住宅を構えられる地域が、活力ある地域であるという考え方に変わってきている。自然環境の豊かな地域が、活力ある地域となりつつある。

「環境」というのは、「自然環境」や「自然との共生」を指すと考えるが、加西市は、この点で大変恵まれている。もう一度、身の回りの自然環境を含めて「環境」を見直す必要がある。

若い人が、住もうという気持ちになることが大事であり、そのような環境づくりを市民あげて作っていくことが必要である。

計画のコンセプトとして「花」は時代の趨勢に合っているが、多様な概念を持っているため、キャッチフレーズとして使うと大きすぎて捉えどころがないものとなり、個性として発揮できないのではないか。「歴史」「愛」も同じ。ただし、高度に成熟した社会では、何とでも解釈できるので非常にいい言葉でもある。

若者の意見は、どんどん聞くべきであるが、安易に迎合しすぎると成熟したものを指すということが希薄になり、理念として弱くなってしまふ可能性がある。若者も必ず老いるという視点を持ち、老人が豊かに暮らせる地域社会（＝若者の夢が実現できる社会）が必要である。加西市のような穏やかな暮らしを築いてきた町にこそ、哲学をもった個性なりコンセプトを打ち出せる余地がある。

市民参画という視点が、今後、市民にとって自己実現を図る上で重要になってくることから、あらゆる施策においてこれを取り入れていくことが重要である。

これまでの計画は、限られた資源を配分していくことが基本的な考え方であったが、これからは人々の多様な価値観に対応するため、計画はゆとりをもって幅を広げておき、その中から選択して、議会がその時々に必要なものを決定していく方向に変化してきている。

基本構想を身近なものとするためには、策定後の計画の進行管理が非常に重要になってくる。進行管理で一番大切なことは、この計画が加西市の「憲法」となるため、「福祉」や

「環境」など多くの個別計画、分野別計画が、審議会での発言趣旨なり基本的な方向に沿ったものとなるように関係部局への周知徹底が必要である。

これからの時代は、アウトソーシングが重要になってくる。適切な人材を集め、活用できるかが地域間の競争になってくる。その意味でこの基本構想に基づいて、いかに有能な人材を適時時限型で効率的に採用・配置してやっていくかが地域活力の大きな源泉となる。

これからは、「地域」という言葉がキーワードになってくる時代である。NPOやボランティアなど地域をベースとして生きがいを感じる人達もたくさんが出てくるはずである。非常に流動的で先がよく見えない時代であるが、これらの人達をいかに効果的に活用して、この構想を実現していくかが鍵である。計画の成否は「人の活用」にかかっている。

（2）基本計画（案）に関する主要意見

第1章 いきいき個性あふれる人づくり（教育文化）

これからの社会は、人間の心によってどのようにでも変わる。道徳教育という視点からみると、今の日本はその意識が薄れかけている。「しつけ」という言葉を死語にしてはならない。町の中を歩いている人がいない。どこにいるのかといえば、みんな車の中にいる。夜、ウォーキングをしている人をみると、少し寂しい気がする。車を避けながら暗い夜道を歩いている。フラワーセンターやいこいの村のような施設があるのだから、楽しく明るい交流できれば良いと考える。

健康づくりに資する食教育の推進の観点を入れるべきである。

第2章 安心して生活できる健康づくり（健康福祉）

健康の原点は食生活にある。日本型の食生活を見直し、みんながお米を食べれば転作が少なくなり、農家も活性化するし文化も育つ。さらに、加西の田園風景の維持にもつながる。豊かな人生を送るためには健康が基本となる。健康であることそのものを目指すのではなく、豊かな生活を送れることを目標として健康づくりに取り組むとすべきである。

視覚・言語・聴覚障害に加え、精神障害に関する業務も市が担うことになるため、精神障害についても明文化すべきであ

る。

加西市の福祉について、「地域で支えよう」というのであれば、もっと「ボランティア」という言葉やそれぞれの地域ごとに実施するという点を強調しなければ、福祉は進まない。行政主導型ではなく、自分たちが地域や老人を支えようという状況を作っていくことが重要である。

第3章 安全で豊かに暮らせる環境づくり（生活環境）

市民の防火防災意識は、まだまだ低い気がする。交通事故に関しても火災等に関しても、意識の全体的なレベルアップを図る必要がある。

阪神淡路大震災を契機として、大災害時における外部との相互応援協定が取り交わされ、防災の体制整備が整いつつあることを明記すべきである。

第4章 活力ある産業づくり（産業労働）

加西市が有機農業都市宣言をして、全国に先駆けて有機農業に取り組み、環境などに配慮して努力している町だということで、加西産の米にも果物にも野菜にも高い評価が得られるのではないかと。これからの世の中は、必ず「有機」が一つのテーマとなってくる。消費者の関心は、想像以上に高いことが予想されるため、曖昧な表現を使うより明快にハッキリと表現すべきである。

林業について、林家自身が積極的に取り組んでいくには、非常に厳しい状況にある。国土保全上、森林には重要な役割があるため、当地域においては「林業の振興」を視野に入つつも、「森林の保全」を行っていくとした方が良いのではないかと。

減反施策の中でブランド品の開発を大いに検討して欲しい。市内各町で「花いっぱい運動」を進めてきた経緯もあり、農業振興の中に「花」に関する事項を盛り込むべきである。

経営の安定化対策として、農協を核とした取り組みを前面に出し、元気のある加西農業づくりを進めることが重要である。開発した団地への企業立地が非常に厳しい状況下において、「産業基盤の整備促進」の表現は、さらに開発するののかという誤解を与える可能性がある。

商業者の二世が跡を継がないという風潮の中で、商工まつり

やサイサイまつりのフリーマーケットでは「商い」を楽しんでいる人が多い。そういう志のある人が気軽に「商い」に参加できる仕組みを考えることが商業の活性化につながるのではないかと。

第5章 次世代を支える基盤づくり（都市基盤）

中国自動車道加西ICは、他のICに比べ暗いように感じる。現在の景気や経済状況を象徴したかのような雰囲気がある。単純な方法でいいので周辺整備を進め、加西市の顔としてのイメージアップを図って欲しい。

都市計画法の規制により、市街化調整区域で住宅が建てられない現実がある。加西市の点在農村集落という地域性も考慮に入れ、今いる若者が定着しやすい環境を作る必要がある。

全体を通して

加西市には、ぶどう等の農産物をはじめ観光資源を見ても素晴らしいものが沢山あるが、外から見ると市の発信するPR情報等、トータルとしての取り組みに若干の課題がある。21世紀は、時代の趨勢としてみんな農業等の一次産業に帰らざるを得ない。加西市はこの種のポテンシャルを持っている。ただ、商品というのは商品そのものの持つ「力」が、最も大切な要素であるが、これに加えて世の中に出していくためには、付加価値により個性的に目立つ物流面での力をつけることも非常に重要になってくる。

少子化対策の抜本的な施策内容が出ていない。なぜかというところの内容が個人のプライバシーに関わる部分であるため、行政が主体となって立ち入る範囲が明確となっていないためである。社会が子どもを産み育てるという方向に行きつつあるが、やはりプライバシーの問題により、その中身について今後十分議論していく必要がある。

今後、広域合併の検討が進められる時期がくると考えられるが、「加西」という名前が後世まで残るよう努力して欲しい。

平成11年	
8月27日	総合計画策定体制の確立 将来構想検討会、総合計画検討部会、総合計画検討委員会、総合計画審議会
9月14日	第1回将来構想検討会（全体会） 趣旨説明、テーマの検討、グループ分け
9月22日	第1回総合計画検討部会（全体会） 趣旨説明、人口フレーム、社会動向、市勢現況、類似都市比較、懸案事項検討、グループ分け
10月14日	第2回将来構想検討会（全体会） グループ毎の途中経過報告、テーマ決定に伴うグループの再編成
10月20日	第2回総合計画検討部会（全体会） アンケート設題項目の検討
11月5日	総合計画検討委員会地区代表者選出依頼（代表区長会にて）
11月10日～ 11月30日	住民意識調査アンケート郵送および回収（16歳以上市民3000人、無作為抽出）
11月15日	総合計画検討委員会委員5名公募（市広報11月号） まちづくり提言の募集（市広報11月号）
11月22日	トップヒアリング（今後の重点施策の方向等）
12月20日	第3回将来構想検討会（全体会） 検討結果報告書とりまとめ途中経過報告
12月24日	第3回総合計画検討部会（全体会） 住民意識調査アンケート結果概要報告、地域ニーズと課題の整理

平成12年	
1月12日	第4回将来構想検討会（全体会） 検討結果報告書の概要説明および提出
2月25日	第4回総合計画検討部会（全体会） 基本構想将来人口フレームの検討、基本計画事務局素案概要の説明、基本計画検討のための分科会再編成
3月14日	第1回総合計画検討委員会（全体会） 会長・副会長の選出、市内主要施設の見学・説明
3月17日	第5回総合計画検討部会（分科会） 基本計画事務局素案の説明・検討
3月30日	基本構想事務局素案 市四役説明
4月25日	第6回総合計画検討部会（分科会） 将来構想検討会報告書配布、基本計画素案の検討
5月10日	第2回総合計画検討委員会（分科会） 基本計画部会素案の説明・検討、検討回数追加の承認
5月12日	有識者懇談会（東京会場）
5月17日	有識者懇談会（大阪会場）
5月25日	第7回総合計画検討部会（分科会） 委員会指摘事項対応方針の検討

6月22日	基本構想 市四役説明
6月27日	第8回総合計画検討部会（分科会） 基本構想事務局素案の説明
7月12日	第3回総合計画検討委員会（分科会） 基本計画修正案の説明、基本構想部会素案の説明
7月25日	第9回総合計画検討部会（全体会） 委員会指摘事項対応方針の検討、これまでの検討結果のまとめ
8月4日	第4回総合計画検討委員会（分科会） 基本構想修正案の説明、同関連箇所基本計画修正案の説明
8月25日	第5回総合計画検討委員会（全体会） 検討委員会最終案の市長への提出
10月6日	第1回総合計画審議会（全体会） 総合計画原案の諮問・説明
10月25日	第2回総合計画審議会（全体会） 総合計画原案の検討
11月30日	第3回総合計画審議会（全体会） 計画案（答申案）付帯意見の検討について、市長へ答申

平成13年

1月26日	国勢調査速報値を踏まえた将来予測人口の修正
2月5日	第3回総合計画審議会意見に基づく修正案の会長・副会長承認
3月1日	市議会へ上程
3月23日	市議会の議決

【あ行】

アメニティ（P23、P92）

環境の快適性。人が心地よいと感じる感覚。

インターネット（P24、P33、P39、P40、P42、P57、P68、P75、P90、P93、P94、P97、P112、P113、P114、P116、P117、P120、P122）
世界各地の大学や研究機関などのLANを相互に接続した世界最大規模のコンピューターネットワーク網。文字情報以外にも、音声、画像情報をやりとりできことが特徴であり、商用利用への解放、操作性の向上等から世界中で急速に普及しつつある。

インデックス化（P114）

多種多様な情報を、統計的、系列的に分類すること。

エコアクションデー（P30）

環境配慮行動実践の日。この日には、コピーをしない、自動車を使わない、エレベーターを使わない、OA機器電源のこまめな入切などにより省資源、省エネルギーに取り組む。

【か行】

環境教育（P42、P43、P77、P78、P80）

人間教育について、現時点という観点だけでなく、あとに続く世代のためという観点に立って、その望ましい姿を明らかにし、持続・改善することを目的とした教育。環境学習ともいう。

共助（P12、P13、P14、P15、P27、P73、P116）

地域コミュニティを中心として「人権尊重」、「思いやり」、「共感」の精神に基本を置いた「助け合い」。

協働（P10、P12、P13、P14、P15、P27、P34、P116）

市民、企業・団体、NPO、行政など加西市で活動する各主体それぞれが共通の基本的な考え方に立って、適切な役割分担や連携に基づく協同による地域づくり。

クオリティ・オブ・ライフ（P10）

生活（生命）の質。

グローバル（P7、P12、P31、P113）

地球の。全世界的な。世界的規模の。

クリーンエネルギー（P30、P81）

環境汚染物質を出さない太陽光や風水力利用などのエネルギー。

ケアマネージャー（P65）

厚生労働省令に定める正式名称は、「介護支援専門員」という。介護保険制度を支える新しい資格職として注目を集めている。

ケースワーカー（P68、P69）

社会福祉主事。病気・貧困など社会福祉問題を個別的に扱い、解決のための指導をする人。ソーシャルワーカーともいう。

高度情報化（P2、P23、P25、P33、P92、P112、P113）

情報技術が高度に発達すること。

コーホート変化率法（P16）

一定期間に出生した集団（コーホート）に着目し、5歳別に出生、転出・転入、死亡の時間的变化（5年後の人口の変化）が、将来も一定であると仮定し、推計する人口推計手法。

コミュニティバス（P24、P109、P111）

地方公共団体が自ら、又はバス事業者に委託してバス不便地域に運行する新乗り合いバス。

コミュニティ・ビジネス（P29、P89、P94）

地域コミュニティを基点にして、住民が主体となり、顔の見える関係のなかで営まれる事業。

コンテンツ（P114）

内容、中身。特に、マルチメディア・アプリケーションを作成する際に必要な静止画や動画、音といった素材を指す。

コーディネート（P98、P116）

仕事の流れが円滑になるように調整すること。

コンセプト（P97、P117）

概念。考え方。

【さ行】

生涯学習（P2、P20、P26、P38、P39、P40、P41、P43、P46、P64、P118、P119）
乳幼児から老年に至るまでの教育のあり方について、従来のように家庭教育、学校教育、社会教育というようにばらばらに考えるのではなく、実社会と遊離しがちな学校教育を社会に結びつけたものにするともに、社会の諸制度を整序して、両者のもつ教育的機能・作用を、人間の発達・成熟の過程・段階に応じて統合し、人が生涯を通じて行う主体的な学習活動。

シナリオ（P14）
脚本。舞台。

省エネルギー（P7、P22、P78、P81）
産業・生活・社会活動全般における資源・エネルギーの効率利用を図ること。

少子化（P2、P28、P38、P41、P44、P49、P68、P102）
子どもの出生率・出生数が激減すること。

ショートステイ（P63、P67）
短期入所生活介護。在宅で介護している家族等が、病気や冠婚葬祭等の社会的理由によって一時的に介護が困難になった場合等に、家族に代わって高齢者や障害者を一時的に福祉施設等で受入れ、必要な介護等を行うサービス。

生活習慣病（P21、P27、P60、P61）
従来、成人病として扱われてきた脳卒中、心臓病、がん、糖尿病などに加えて、肝疾患、胃潰瘍、骨粗鬆症、歯周炎など、食生活や喫煙、飲酒など生活習慣に問題のある疾患を指す。

セクター（P34）
分野。

ゾーン（P17、P18、P19、P32、P33、P108）
地帯。地域。範囲。

事業化シーズ（P31、P90）
新規事業を始めるための事業の種（核）

集落営農（P84、P85、P86、P87）
転作等の生産調整を含め集落規模で農地の利用を考えたり、農作業を大型機械の共同利用で実施したりするなど、効率的な生産性の向上と生産コストの低減のために組織化した団体が行う地域農業。

市民オンブズマン（P65）
自治体や議会の監視活動を続ける市民団体。オンブズマンは「代理人」という意味。

スクールカウンセラー（P43）
いじめや登校拒否の問題に対処するために派遣される専門家。

ゼロ・エミッション（P29、P81、P82）
廃棄物を資源として再利用し、廃棄物をゼロにする考え方。元々は、ある産業で排出される廃棄物を、別の産業の原料として使い、地球全体として廃棄物をゼロとしようとする計画。

セーフティ・ネット（P9）
安全を確保するための方策。アメリカで最低限の生活を保証する安全策。

成年後見制度（P69、P70）
痴呆性老人を中心とした意志能力の低下した高齢者に対する権利擁護制度。

セクシュアル・ハラスメント（P118）
相手の意に反した性的な性質の言動を行い、それに対する対応によって仕事を遂行する上で一定の不利益を与えたり、それを繰り返すことによって就業環境を著しく悪化させること。

【た行】

滞在人口（P16）
「滞在人口」＝「交流人口」－「昼間流出人口」。ここで、「交流人口」は、その地域に住み着く「定住人口」に対し、観光客のように他地域からやってくる人の数をいう。また、下水道整備や道路整備など基盤整備については、実質的に市内に滞在する人々である「滞在人口」を加味した「将来人口フレーム」を対象として整備を行う。

地域コミュニティ（P9、P12、P65、P116、P117、P119）
地域社会。共同体。基本社会。社会学や政治学で、共同生活が行われる一定の地域。また、そこに住む人々。

定住人口（P16）
その地域に住み着く人の数。

データベース（P97、P120）
膨大な情報を磁気テープやハードディスクなどにコンピューターに記憶させ、必要な時にデータを素早く取り出せるシステム。

特別養護老人ホーム（P63、P65）
身体上又は精神上著しい障害があるため、常時介護を必要とし、自宅で介護を受けることが困難な65歳以上の高齢者が入所できる施設。

タウンマネジメント機関（TMO）（P92）
法人、任意団体の組織形態を問わないが、経営感覚をもって、さまざまな主体と関わり合い総合的に調整することによって、総合的にまちづくりを推進する機関。

男女共同参画社会（P39、P116、P118）
男女が、社会の対等な構成員としてあらゆる分野に参画する機会が確保され、それぞれが均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、また男女ともに責任を担うべき社会。

チームティーチング（P42）
個に応じた教育を充実させることを目指し、教室等で複数の教員が協力して効果的な授業を行う指導方法。

地区計画（P107）
土地利用規制や建築物の用途・形態の制限、細街路などの配置を総合的に都市計画できめ細かく一体的なまちづくりを市町村が進めていくために設けられた制度。

地方分権一括法（P2）
地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律。地方分権一括法は、中央と地方の「上下」の関係を対等な関係に改め、地方自治の活性化を図るものである。

デジタルデバイド（P113）
情報格差。

デイサービス（P61、P63、P67）
通所介護。在宅の高齢者の自立促進、生活の改善、身体機能の維持向上等を図るため、通所施設等に送迎し、入浴、食事の提供等の日常生活上の世話、機能訓練を行うサービス。

トライやる・ウィーク（P42）
中学生が地域社会の中で生きる力を身に付けるために“トライ”する（やる）1週間。トライには、学校、家庭、地域の3者連携によるトライアングルという意味が込められている。

とも補償制度（P86）
水稻を他の作物に転換した場合に補償金が交付される制度。加入申請した農家からの水田面積に応じた拠出金と国の助成を合わせた財源から、生産調整実施者に「とも補償金」が交付される。

【な行】

ノーマライゼーション（P21、P66）
高齢者、障害者をはじめ、誰もが特別視されることなく、通常 of 社会生活を享受できるようにすること。

ニューファクトリー（P90）
機能性と快適性の双方に優れた作業環境、周辺環境への配慮、地域社会への貢献等の機能を有する工場。

ネットビジネス（P94、P112）
インターネットを活用したビジネス。

【は行】

ハイブリッドカー（P30、P79）
エンジンとモーターを組み合わせた動力源による

自動車。ハイブリッドとは、混成物という意味。

バリアフリー（P68）

障害者や高齢者の生活や活動に不便な障害を取り除くこと。例えば、階段に代わるスロープを付けることなど。

パートナーシップ（P116、P117、P119、P120）

連携、協力関係、連合。

フォーラム（P116）

一つの問題を中心にして討論する会。公開討論会。

プライバシー（P65、P116、P117、P120）

私事。私生活権。個人の私生活を守る権利。

ブランド化（P85、P86）

製品の銘柄をアピールするため、その品質、デザインなどの独自性を強調し、知名度を高めること。

フレーム（P16）

枠組み。

ホームヘルプサービス（P28、P67）

訪問介護。日常生活に支障のある人（高齢者や障害者（児））の自宅を訪問し、入浴、排泄、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、生活に関する相談、助言、外出時の移動の介護を行うサービス。

ポテンシャル（P5、P10）

潜在能力。可能性。

ホスピタリティ（P23、P32、P95、P96）

歓待、親切なもてなし。

バーチャルモール（P92）

インターネットを通じて商品を購入できる仮想商店街。

パーク&ライドシステム（P110）

駅まで車で行き、そこからバスや電車に乗る方式。

ビオトープ（P78、P107）

特定の生物群集が存在できるような環境条件を備えた空間のこと。

フラワーバンク制度（P29、P79）

多くの人に花に触れ親しんでもらい、自発的に花づくりを行うきっかけとするため、市民から寄せられた花の種子を市が預り、必要とする人に斡旋する制度。

プレーリーダー（P45）

遊びを通して、子どもと関わる大人。

【ま行】

マーケティング（P31、P84、P85、P86、P89、P90）

生産者から消費者へ商品やサービスが流れる過程の一切の商業活動。広告宣伝、市場調査等を含む。

マルチメディア（P53）

通信、放送といった異なったサービス形態を融合して音声・データ・画像をデジタルで高速に送受信できる形態。

未利用エネルギー（P22、P81）

都市生活から出てくる排熱や、大気との温度差を利用した河川水、下水処理などの熱といった、これまで利用されてこなかったエネルギー。エネルギー政策の中で省エネルギーの有効な方法と位置づけられている。

モニター（P76）

放送局、新聞社や企業体から依頼を受けて、番組、記事や製品などについての意見を提出する人。

【や行】

ユニバーサルデザイン（P21、P28、P68）

まちづくりやデザイン等に関して、誰もが利用しやすいデザインを初めから取り入れておくこと。

【ら行】

ライフステージ（P47、P49、P60、P63、P116）

人間の一生を少年期・青年期・壮年期・老年期など発達段階ごとに分類したそれぞれの段階。

リカレント教育（P38）

学校教育を終了し、社会に出た後、必要があれば再び学校に戻り学習する教育。

【アルファベット】

IT（P7、P10、P33）

情報通信技術。コンピューター関連の基礎技術から応用技術まで、幅広い範囲の内容を指す。コンピューター・システムを構成するハードやソフトの技術そのものを指す場合、またコンピューター・システムを利用したデータの活用の仕方を指す場合もある。

OA化（P121）

企業などの組織体において、総合生産性を高めるため、オフィスの企業と作業の効率化・合理化を図る活動および状態。

PFI（P120、P121）

Private Finance Initiativeの略。公共施設等の設計、建設、維持、運営に、民間の資金とノウハウを提供し、効率的で質の高い公共サービスの提供を図る民促事業。

BOD（P79）

生物化学的酸素要求量。河川の水質の汚染度合いを表す指標で、好気性バクテリアが水中の有機物を酸化分解するのに要する酸素量を表したものの。

COD（P79）

化学的酸素要求量。海や湖沼の水質汚染については、CODが用いられる。

NPO（P3、P10、P12、P27、P34、P39、P108、P116、P117、P119、P121）

Non Profit Organizationの略。民間の非営利組織。

SOHO（P7、P33、P113）

Small Office Home Officeの略。小規模オフィス、自宅等で個人起業家や自営業者がパソコン、インターネット等を利用してビジネスを行うこと。

LAN（P42、P113）

同一建物内、あるいは同一敷地内などの比較的狭い地域に分散設置されたサーバー、ワークステーション、パソコンなどの各種コンピューターを結ぶ構内ネットワーク・システム。

U・J・Iターン（P9、P86、P90、P99）

Uターンは、大都市圏などで生活していた地方の出身者が、再びその地域に戻ることに。Jターンは、大都市圏などで生活していた地方の出身者が、郷里に戻るのではなく、その地方の中核都市（例えば、姫路市）に戻ることに。Iターンは、大都市圏などの出身者が、地方へ移住すること。

第4次加西市総合計画

平成13年3月策定

平成13年8月発行

発行：兵庫県加西市

〒675-2395 兵庫県加西市北条町横尾1000番地

TEL：0790-42-1110

編集：加西市企画総務部企画調整課



兵庫県 加西市

花と歴史と愛のまち かさい

- 活力とゆとりに満ちた「ふるさと夢都市」をめざして -



R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています